

第4回 ソーシャル・ファイナンス研究会 ソーシャル・ファイナンスの主要プレーヤー

第4回では、ソーシャル・ファイナンスを担う主要プレーヤーについて検討します。

ソーシャル・ファイナンスの発展には、これを担う専門機関が必要です。社会的リターンを追究する資金提供者・団体、資金の調達・投資を担う資金仲介団体、さらにソーシャル・ファイナンスのエコ・システムを支える多様なサービス機関や専門機関、インフラ機関などが登場することで、ソーシャル・ファイナンス市場の成長が可能になります。

今回の研究会では、現在、欧米諸国で発展しつつある多様なプレーヤーを概観し、さらに、その中でも重要な役割を果たしているコミュニティ開発金融機関とソーシャル・バンクに焦点を当てた分析を行います。こうした欧米の諸事例は、今後の日本におけるソーシャル・ファイナンスの発展にも重要な示唆を与えてくれるでしょう。

ぜひ皆様、お誘い合わせの上、研究会にご参加いただきますようお願い申し上げます。

【日時】

10月8日(土) 14:00 – 17:30 (終了後、懇談会を予定)

【会場】

明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー1085教室

【講師】

唐木宏一(事業創造大学院大学教授、社会的金融研究所代表)

小関隆志(明治大学経営学部准教授)

小林立明(ソーシャル・ファイナンス研究会代表)(モデレーター)

【参加申し込み】

以下のフォームに記入し、事務局(socialfinance2016@gmail.com)までお送り下さい。なお、資料代・懇談会費は、当日、受付にてお払い頂きますようお願い申し上げます。

ご氏名(ふりがな):

ご所属・肩書き :

ご連絡先 : メール1(必須)
 メール2(任意)

■以下から一つご選択下さい■

1. () 研究会のみ参加したい(資料代 2,000円)
 2. () 研究会と懇談会に参加したい(資料代 2,000円 + 懇談会費 3,000円)
 3. () 今回は参加できないが、メーリングリストに登録したい
-

プログラム概要

1. イントロダクション(小林)

ソーシャル・ファイナンス市場の発展には、これを担う主要プレーヤーの育成が必要である。本セッションでは、主要プレーヤーを、「資金提供者」(個人、財団、企業CSR部門、政府等)、「中間支援団体」(資金仲介団体、サービス機関、専門機関)、「インフラ機関」(評価・格付機関、流通市場等)の3つに整理し、それぞれの役割を検討する。

特に、ソーシャル・ファイナンスの発展には、中間支援団体の発展が不可欠である。現在、欧米で発展を遂げている中間支援団体を法人格や機能に基づいて整理し、それぞれが果たす役割を概観する。最後に、更なる市場の拡大を担う役割が期待される社会的証券取引所や流通市場、評価・格付機関などの取り組みについても紹介する。

以上を踏まえた上で、今後の日本における発展に必要な取り組みを考えてみたい。

2. ソーシャル・バンクの取り組み、別の意味で「ソーシャル」な金融(唐木)

ヨーロッパには「ソーシャル」な金融業務に取り組む「ソーシャル・バンク」と呼ばれる銀行が存在している。それらソーシャル・バンクは、二つの流れの上に形成されている。一つは、主に大陸系ヨーロッパ社会の底流に流れる「社会的経済」的考え方を基盤とする、市民のイニシアティブによる連帯的な活動であり、もう一つは80-90年代以降顕在化してきたいわゆる社会的責任投資(SRI)的な考えに基づく投資活動である。それらを「金融 CSR」と「CSR 金融」という用語で説明することも可能である。今回はいくつかの事例を取り上げ、それらの来歴ゆえの「取引相手にかかる除外スクリーン」や「預金におけるマイナス金利」など、ユニークな事業活動について紹介と考察を行う。

加えて時間の許す範囲で、別の意味で「ソーシャル」な、近年みられる金融事業活動である投融資型クラウド・ファンディングの、海外及びわが国での展開について概説する。

3. コミュニティ開発金融機関と先進諸国における金融包摂(小関)

アメリカやイギリスで主に発達したコミュニティ開発金融機関(Community Development Financial Institutions; 以下 CDFIs と略称)は、金融包摂を目的として低所得層、エスニック・マイノリティ、難民・移民などの社会的弱者や NPO、社会的企業、中小企業などに金融サービスを提供するソーシャル・ファイナンス機関である。ヨーロッパ諸国で発達したソーシャル・バンクが環境・エネルギー・有機農業など幅広い社会課題

を対象としているのに対し、CDFIs は金融包摂に焦点を当てている点が特徴である。また、CDFIs の多くは銀行ではないため、政府からの厳格な監督に縛られず自由度の高い経営が可能である。CDFIs は投資減税制度などをうまく活用しながら、銀行や助成財団、個人投資家などから資金を集め、その資金を投融資する中間支援団体として、社会的な資金の流れを形成することに中心的な役割を果たしてきた。

講師略歴

唐木 宏一(からき こういち)

事業創造大学院大学教授、社会的金融研究所代表。13 年間の都市銀行勤務ののち、一橋大学商学研究科博士後期課程修了。博士(商学)。2008 年に社会的金融研究所を創設。2015 年に事業創造大学院大学准教授。2016 年に同教授、現在に至る。著書『ソーシャル・アントレプレナーシップ』(NTT 出版、2007 年)(共著)、『SRI と新しい企業・金融』(東洋経済新報社、2007 年)(共著)などのほか、金融専門誌『New Finance』他にて論考を執筆。

小関 隆志(こせき たかし)

明治大学経営学部准教授。一橋大学社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。法政大学大原社会問題研究所兼任研究員などを経て 2001 年に明治大学経営学部専任講師。2006 年に同助教授(2007 年准教授)、現在に至る。主著に『金融によるコミュニティ・エンパワーメント』(ミネルヴァ書房、2011 年)、『マイクロクレジットは金融格差を是正できるか』(ミネルヴァ書房、2016 年)(共著)など。

小林 立明(こばやし たつあき) (モダレーター)

ソーシャル・ファイナンス研究会代表。ペンシルヴァニア大学非営利指導者育成修士課程修了。国際交流基金・日本財団勤務、ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員等を経て、現職。専門領域は、グローバル・フィナンソロピーとソーシャル・ファイナンス。主要著作は、「フィナンソロピーのニューフロンティア」(レスター・サラモン著、ミネルヴァ書房、2016)(翻訳)、「英国チャリティの変容」(弘文堂書店、2015)(共著)等。

アクセスマップ



【住所】〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1 明治大学リバティワー1085 教室

【アクセス】

- JR 中央線・総武線、東京メトロ丸の内線 ／ 御茶ノ水駅(徒歩約 3 分)
- 東京メトロ千代田線 ／ 新御茶ノ水駅(徒歩約 5 分)
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線 ／ 神保町駅(徒歩約 5 分)

ソーシャル・ファイナンス研究会について

日本におけるソーシャル・ファイナンスの発展を目指して、研究者、金融関係者、NPO・社会的企業関係者、政府・自治体関係者等による情報交換と調査・研究の促進を目的に設立された研究会です。2016 年度は、全 8 回の研究会を開催する予定です。また、フェイスブック上の「ソーシャル・ファイナンス研究会」グループでも、情報交換を行っています。

- ❖ 代表： 小林立明
- ❖ 協力：(一社)ソーシャル・ファイナンス支援センター、明治大学小関隆志研究室
- ❖ 問い合わせ先：研究会事務局(socialfinance2016@gmail.com)までお願いします。